

社会福祉の良心(2)

孤児の父(児童福祉のパイオニア)
石井十次の場合

木原活信(同志社大学)

はじめに

- 「ある運動や技術を本当に知りたければその創始者を知るのがもっともよい。創始者は、充分にそれに応じてくれる。かれらをよく研究するとき、彼らは素晴らしい親友になってくれる。よく言われるように、我々も本当の理想的な親友を選択することはできるのだ。とはいってもその親友には決して会うことはない、あるいは再び地上で再会できないであろうが、その親友は本能的に指導や勇気と洞察力を与えてくれることであろう。」(Mary Richmond, “A Background for the Art of Helping”, 1924)

社会福祉の良心と言われた「同志社派」
:新島襄の系譜

- 「社会福祉の良心」派 「底辺への志」(小倉襄二)
- 新島襄⇒「一国の良心ともいうべき人物」
- 「良心の全身に充滿したる丈夫(ますらお)の起り来(きた)らん事を」
- 「道徳心を磨き、品性を高め、精神を正しく強めるように勤め、ただ、技術や才能ある人物を育成するだけでなく、いわゆる『良心を手腕に運用する人物』」
- 「それはただ、キリスト教の神を信じ、真理を愛し、他人に対する思いやりの情に厚いキリスト教の道徳によって、『一国の精神となり、活力となり、柱石となる人物』である」。

社会福祉の良心:同志社派としての
石井十次

- 「政治の早稲田、経済の慶応、そして福祉(社会)の同志社」(小倉襄二)
- 社会福祉とキリスト教が良心という装置によって結晶化する
留岡幸助、山室軍平、(石井十次)、牧野虎次(賀川豊彦)、竹中勝男、竹内愛二
中村遥、嶋田啓一郎、金徳俊(韓国)

留岡幸助

- 1864-1934
- 1885同志社入学
- 1888卒業後、牧師、教諭師
- アメリカ留学
- 北海道家庭学校創設



山室軍平

- 1872-1940
- 1889同志社入学 1895同志社退学
- 「偉大なる退学者」
- 日本救世軍創設
- 日本を代表するキリスト教伝道者
- 廃娼運動
- 『平民の福音』



牧野虎次 (京都市広報HPより)

氏は、早くから社会事業の重要性を認識し、京都四條基督教会牧師として京都大二義塾(感化事業)、京都同友会(釈放者保護事業)を創立し、釈放者保護事業に尽力したのをはじめ、内務省の囑託として全国社会事業の普及とその施設の整備拡充に尽力し、また、財団法人東京家庭学校(感化教育)校長及び各種社会事業団体の要職を兼ね、60有余年の永きに亘り社会事業に身を捧げた。なお、同志社総長をはじめ、京都府教育委員会委員長の要職に就き、子弟の育成に力を注ぎ、教育界に尽くした功績もまた誠に大である。

昭和8年
東京家庭学校校長
昭和13年
同志社大学長
昭和16年
同志社総長



石井十次



憲法
一大決心
相成りし
同志社
石井十次
以上
石井十次

石井十次(1887-1971)の生涯を綴った日記の抜粋

生涯 ①

- 1865年4月11日宮崎県児湯郡上江村馬場原(現:宮崎県高鍋町)に誕生
- 1879年:東京攻玉社に游学(脚気のため帰郷)
- 1880年:岩倉暗殺計画の疑いで逮捕拘留
- 開墾事業に着手
- 1881年 品子と結婚(小学校教師、警官など歴任)
- 1882年:岡山県甲種医学校(現岡山大学医学部)入学(萩原百々平との出会い キリスト教に触れる)
- 1884年:馬場原教育会設立(「同志社設立の趣意書」の影響)岡山教会(金森通倫牧師)にて受洗
教会員の炭谷小梅との出会い

生涯②

「孤児のため 命を捨てて働かん
永(とわ)の眠りの床につくまで」
明治20年(1887)9月22日の日記

- 1886年 「脳病」に苦悩 療養、治療
- 1887年:前原定一との出会い(4月)
ジョージ・ミュラー来日(同志社での説教共鳴)
「日本のミュラーになる決意」
⇒岡山孤児院(孤児教育会)創設
- 1888年 渡辺亀吉(元囚人)との出会い
1889年1月:孤児教育に専念決
医学校退学 医書焼き捨て
9月孤児極度飢えに苦しむ:
宗教的体験:祈りの応験(米国教会からの支援)

生涯③



音楽幻燈隊の写真

- 1891年:濃尾震災孤児救済
- 山室軍平と協働
- 1892年 同志社病院入院 社会事業学ぶ
- 1895年品子永眠, 吉田たつ子再婚
- 経営危機
- 1896年:岡山孤児院新報発行
- 1898年: 音楽幻燈隊を編成し全国巡回
- 大原孫三郎と出会う

生涯④

- 1905年:孤児無制限收容宣言
- 1906年:東北大凶作貧孤児824名を保護
- 岡山孤児院1,200人
日向茶臼原に移住(52名)山室軍平支援
里子制度開始
- 1907年4月:創立満20年記念式
5月:救世軍ブース大将来院
6月:大阪事務所開所

生涯⑤

- 1909年: 孤児救済事業の拠点を日向茶臼原へ移転(99名), 大阪愛染橋保育所ならびに夜学校を開設(名称「友愛社」に変更)
- 1913年: 茶臼原憲法
 - 一. 天は父なり人は同胞なれば互に相信じ相愛す可き事
 - 二. 天父は恒に働き給ふ我等も俱に労働す可き事
 - 三. 天恩感謝のため我儕は禁酒を實行し収入の十分の一を天倉に納むる事
- 1914年1月30日: 死去(48歳)

石井十次に影響を及ぼした人物

イエス 炭谷小梅 ジョージ・ミュラー

(1890年8月15日の日誌)

事業着想の原点としての新島襄
孤児の友 渡辺亀吉
信仰の友、戦友 山室軍平
経営上最大の支援者 大原孫三郎

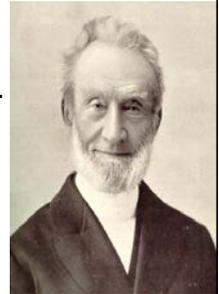
炭谷小梅(1850~1920)

- 「信仰の母」として敬愛
- 石井十次の母親的存在、支援者
- 両親と早く別れた自分の体験
- 才智優れ、一流の芸妓だったが、
- 1884年岡山基督教会創立時に受洗して献身者として石井を支える

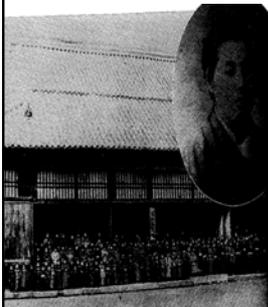


ジョージ・ミュラー(1805~1898)

- イギリスのプリストル孤児院(1836年)の創設者
- 初期ブラザレン運動のリーダー
- 1886年末から1887年初頭来日
(同志社で講演:1887. 1. 7)
孤児事業は神の事業である
信仰の生涯(信仰と祈祷)

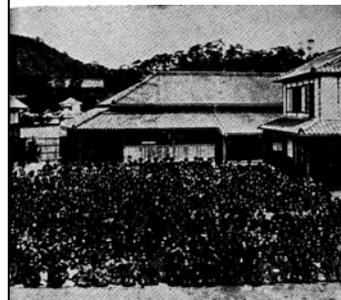


品子夫人



三友寺の建物を借りて、明治20年(1887)9月、岡山孤児院を創設、以後10年あまり、献身。1895年9月、過労と病気のため死去

1906年東北凶作地孤児救済



東北地方の凶作対策ため、福島、岩沼、仙台に事務所を設置して、孤貧児824名を收容した。その結果、この年には、岡山孤児院の收容児は1,200名を超える

女子家庭の夕食

明治38年(1905), 石井イギリスのバーナード孤児院に範をとり, 家庭制度(小寮舎制度)採用

孤児院内の女子家庭の夕食の情景.



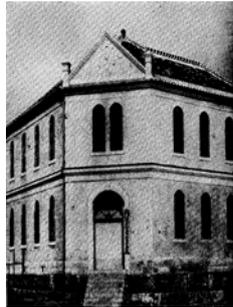
桑畑で働く子供たち



石井十次は, 孤児教育には農業教育が最も効果的であることを考え, 明治41年(1908)頃から数年にわたって, 岡山孤児院を宮崎県の茶臼原に移転. 重点を桑畑作業

岡山孤児院大阪事務所

明治40年(1907), 大阪に進出した岡山孤児院大阪事務所. 出入橋畔にあったが, 同42年(1909)7月の大火で類焼



愛染橋尋常高等小学校



故石井十次を記念して大原孫三郎が石井記念愛染園を創設し, 大正6年(1917)にこの中に附属小学校を設立した.

参考文献

- ・細井 勇(2006)「第2章 石井十次—岡山孤児院と孤児教育—」 幸田保夫編『人物でよむ 近代日本社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房, 19~25.
- ・柴田善守(1978)『石井十次の生涯と思想』春秋社.
- ・木原活信(1999)「ジョージ・ミューラーが石井十次に及ぼした影響」同志社大学人文科学研究所周『同志社大学人文科学研究所周研究叢書17 石井十次の研究』同朋舎, 1~26.
- ・更井良夫(1995)『石井十次と岡山孤児院』石井十次先生銅像再建委員会
- ・幸田保夫・田中真人編著(1999)『石井十次の研究』同志社大学人文科学研究所周・同朋舎、角川書店(発売)〈同志社大学人文科学研究所周研究叢書〉
- ・細井勇(2009)『石井十次と岡山孤児院 : 近代日本と慈善事業』ミネルヴァ書房〈Minerva社会福祉叢書〉

石井十次の映画・TV(参考)

- ・映画『石井のおとうさん, ありがとう; 岡山孤児院-石井十次の生涯-』
- ・TV放送『知ってるつもり-石井十次-』(1992, 9, 13)